

令和6年度 学校経営計画書

学校番号	43	学 校 名	静岡県立焼津中央高等学校	校 長 名	遠山 一郎
------	----	-------	--------------	-------	-------

【教育目標】

真理を探究し、高雅な教養と豊かな心情を育て、人格の調和を図るとともに、勤労と責任を重んじ、自主的精神に満ちた真に社会に貢献し得る、心身ともにたくましく健康な人材を育成する。

1 スクール・ミッション

高い目標を掲げて進路実現を目指す地域の中心的な高等学校として、校是「文武両道」の下、生徒の主体的な学びや学力伸長を支援する授業、積極的な異校種間（中・高・大）連携事業による先進的な取組、工夫を凝らし体系化された進路指導などを通して、揺るぎない自己を確立し、社会や地域に積極的に参画・貢献する「たくましく・たしかで・ゆたかな」人材の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

1	グラデュエーション・ポリシー
①	自主的精神に満ち、積極的に社会に参画・貢献し得る、たくましい心身。 主体性・実践力・協働性
②	真理を探究し、高雅な教養の基礎となる、たしかな知性。 探究心・思考力・表現力
③	人格の調和的発達を図り、自分と他者を尊重する、ゆたかな心。 公共心・自己肯定感・レジリエンス
2	カリキュラム・ポリシー
①	生徒一人ひとりの高い進路目標の実現に応えるよう教育課程を編成します。
②	探究活動で身に付けた教科横断的な力を教科でも生かし、主体的な学びを推進します。
③	学校行事・部活動・各種事業を充実させ、積極的に参加できる体制を整えます。
3	アドミッション・ポリシー
①	積極的に学ぶ姿勢を持ち、高い目標に向かって最後まで頑張りぬく生徒。
②	学習面とともに、学校行事や部活動など多くの活動に挑戦する生徒。
③	自分と他者を尊重し、協働し、切磋琢磨しながら高め合うことができる生徒。

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

- ア 授業の質の向上とICTの有効活用を促進し、学力の確実な定着と思考力・判断力・表現力の向上を図る。
- イ 自律的な基本的生活習慣を確立させ、心身の調和の取れた生徒を育成する。
- ウ 探究活動、学校行事、部活動、各種セミナー等への積極的な参加により主体的な生徒を育成する。
- エ P D C Aを基にした計画的で組織的な進路指導(スパイラルアッププログラム)を推進し、進学対応力と意識・意欲・能力の向上、進路希望の実現を図る。
- オ 読書環境の整備により、読書習慣の定着と語彙力・表現力の育成を図る。
- カ 授業や行事などを活用し、主体的に主権者教育・消費者教育に取り組む生徒を育成する。
- キ 地域との交流や広報活動を充実させ、保護者や地域から信頼される学校づくりに努める。
- ク 教職員のコンプライアンス・危機管理に関する意識・資質の向上と、働き方改革の推進を図る。
- ケ 生徒、教職員が教育活動に専念できるような環境を整備する。

3 本年度の取組

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	・基礎学力の確実な定着を図るとともに、資質・能力の育成を念頭に置いた授業改善に取り組み、進路実現を可能とする学力を育成する。	・年間を通じ、生徒の実態に合わせた、課題の提示と小テストの実施。 ・テスト後の追指導。 ・スタディレコード等への記録と把握。 ・各授業における育成すべき資質・能力を明確化し、学習評価や授業改善を行う。 ・新学習指導要領に対応した教育課程を踏まえた授業の確実な実施。 ・「学びの基礎診断」等を活用した分析を年3回以上実施し、生徒の学力を把握し、指導の検証・改善に結び付ける。 ・1人1台端末やICTの効果的、日常的な活用の促進を図る。 ・各教科で育成を目指す資質・能力と単元シラバスの研究。	・基礎学力が定着する。 ・学習支援サービスの有効活用により、生徒が自身の学習状況の振り返りと改善ができ、教員は指導に生かす。 ・指導と評価の一体化を意識して授業改善に取り組んだ教員70%。 ・学びの基礎診断、模擬試験等の結果の共有と分析を生かし、年間4回の面談実施により具体的指導が徹底される。 ・授業で1人1台端末の活用を意識して行った教員70%。 ・1人1台端末を日常的に活用したと答える生徒70%。	教務 進路 情報 研修 各学年 各教科
イ	・校則及び社会規範を遵守する意識を育てる。	・生徒による挨拶運動、時差登校支援、職員による声掛けを継続。 ・校外交通指導（年5回）。 ・交通安全教室の実施。 ・定期的な服装頭髪指導に加え、全職員による日常指導を徹底。	・場に応じた挨拶と対話ができる生徒100%。 ・不注意遅刻者が年間20人以内、交通事故10件以内。 ・一時不停止・並進違反が20件以内。 ・服装の乱れ等で再指導を受ける生徒0%。	生徒
	・基本的生活習慣の確立と心身の健康管理を図る。	・各健診の事後措置を徹底。 ・既往症のある生徒の状況を全職員に説明。	・心臓病、貧血等の健康診断有所見者受診率100%。 ・緊急時には職員がマニュアルにより適切な対応ができる。	保健
		・年間2回以上の担任面談を実施。 ・気になる生徒の状況を定期的に聞き取り、全職員に周知。	・適切な助言により、生徒との信頼関係が深まる。 ・組織による対応が可能となり、該当生徒及び担任等への支援が充実する。	教育相談

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ウ	・ 全校生徒が生徒会活動に参画し活性化する。 ・ 学校行事や部活動により、積極性・主体性を育てる。	・ 生徒主体の行事運営、委員会活動の促進。 ・ 部活動への積極的な参加。 ・ 地域活動への積極的な参加。	・ 全生徒が委員会等の活動や地域行事等に参加し、自己有用感が高まった生徒 80%以上。 ・ 全生徒の技術や意欲が向上し、自己肯定感が高まった生徒 80%以上。	生徒
	・ 探究活動の活性化 ・ 中高大連携事業の推進 ・ 教科学習や探究学習、研修等を通じてグローバルな視点と思考、英語 4 技能対応力を育てる。	・ 「総合的な探究の時間」の深化と探究セミナーの充実。 ・ リアルアクションを通して生徒の情報収集力・情報分析力・課題発見力・構想力・課題解決力等の向上を図る。 ・ 各種大会や発表会への積極的な参加。 ・ 原子力・エネルギー教育支援事業の活用。 ・ 最先端の技術を授業で体験し、科学リテラシーを育むことで課題解決能力の向上を図る。 ・ 中学生に対して授業をすることを通して、説明する力・コミュニケーション能力の育成を図る。 ・ 様々な研修等への積極的な参加。 ・ 本研修及び、事前研修、事後研修の充実。	・ 探究活動を通じて自分の課題解決力が高まったと答える生徒 70%以上。 ・ リアルアクションを実行した生徒 100%。 ・ 探究活動を通して、SDGs や大学の研究に関して学び、地域や社会の問題に関心を高め、進路希望決定や志望理由書の作成に生かすことができる。 ・ 実験・実習に参加した生徒の満足度 80%以上。 ・ 授業に参加した中学生の満足度 70%以上。 ・ 中学生に教えたことで実験・実習の成果が生かせたと答える生徒 80%以上。 ・ 研修後の生徒アンケートの満足度 90%以上。 ・ 研修に参加して、英語活用能力が向上したと答える生徒 80%以上。 ・ 民間検定試験等での実績向上	特別委員会 全学年 英語科
エ	・ スパイラルアッププログラムによる個々の能力・適性の伸長と、主体的・探究的な姿勢を育成し、生徒一人ひとりの進路実現を図る。 ・ 教育改革、新大学入学試験等への対応を深化・充実させる。 ・ 教員の進路指導力の向上。	・ 個別面談、補講、自学自習支援、進路行事等を計画的に実施し、生徒の進路実現と実績向上を図る。 ・ 二次試験指導、面接、小論文指導の充実。 ・ 各教科の共通テスト研究や、大学推薦入試拡大への対応。 ・ 教員研修の実施。 ・ 各種研修会、研究会への積極的な参加。	・ 共通テスト 6 教科 8 科目受験者を共通テスト受験者の 70%以上、かつ国公立大学受験者を学年 70%以上。 ・ 国公立大合格数 150 人以上。 ・ 難関大合格数（旧帝・ブロック等）20 人以上。 ・ 教員の教育改革、大学入学試験等への理解が深まり、進路指導に生かすことができる。 ・ 担任研修会や検討会等の研修機会に参加する教員 100%。 ・ 希望者対象の各種研修会、研究会に 10 人以上参加する。	進路 3 年部 各教科 特別委員会

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
オ	・読書習慣の定着と読書量の増加及び読書の質の改善に努める。	・読書週間を年２回実施。 学年別にテーマやジャンル等設定、読書の充実を図る。 ・ビブリオバトルを年１回実施。 ・活発な広報活動を行う。	・読書週間等の活動を通して読書への関心を高め、年間３冊以上読む生徒が全体７０％以上になる。 ・ライブラリー(図書委員作成の生徒用広報誌)を年１０回以上、新刊図書案内を月１回発行し、貸出数が増加する。	図書
カ	・主権者・生活者としての自覚を促し、政治や選挙・消費に関する知識を身につけ、関心を持たせる。	・各教科、総合的な探究の時間、特別活動等の指導により、政治や選挙、生活者としての関心を高める。	・政治的教養が高まり、政治や選挙への関心が高まったと感じる生徒が８０％以上。 ・主権者・生活者としての自覚が高まった生徒６０％以上。	教務 生徒 各教科
キ	・広報活動を充実させ、積極的な情報発信をするとともに、地域から信頼される学校としての体制作りをする。	・学校ホームページの迅速・正確な更新による学校の魅力化発信と新校舎移転関係情報提供。 ・学校行事、部活動結果等の情報集約・整理の仕組みを作る。 ・ＰＲポスター・パンフレット、チラシの作成、説明会の充実、中学校等訪問等の発信事業の充実。 ・クラウドサービスを活用した、きめ細かい情報提供。 ・保護者会の実施。 ・電話、窓口対応を迅速、的確に行う。	・学校ホームページのシステム移行及び全面刷新。 ・学校ホームページの内容の充実と年間閲覧者数の増加。 ・新校舎関係の情報提供週１回 ・学校説明会に参加した中学生の満足度８０％以上。 ・クラウドサービスによる情報提供に満足していると答える保護者９０％以上。 ・各学年１回以上の保護者会を実施する。 ・電話、窓口対応に対するクレーム０件。	情報 管理職 特別委員会 事務
	・地域との交流を推進する。	・部活動、事業、探究活動等による地域交流を推進する。	・地域との交流活動が前年度より３０％程度増加する。	部活動 委員会

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ク	・危機管理能力を高めるとともに地域の安全と防災に貢献する。 ・コンプライアンス遵守の意識の確実な向上を図る。	・「危機管理マニュアル」の周知徹底。 ・校内防災訓練年3回実施 ・生徒、保護者に対して「防災マニュアル」の内容を年1回以上周知する。 ・年度当初の防災備品点検 ・地域防災訓練の参加促進 ・毎月の研修及び定期的な資料提供等による注意喚起と指導。	・災害発生の際、教職員及び生徒が速やかに的確な減災対応をとることができ、負傷者を0名とする。 ・地域防災訓練への年1回以上の参加率90%以上。 ・声を掛け合い、チーム力向上を意識する教職員100%。 ・不祥事の発生0件。 ・職員の交通事故0件。	総務 管理職
	・教職員、生徒を支援する校内研修等の充実と改善を研究、実施する。	・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するために、1人1台端末やICTの活用方法について研究・研修を行い、実践する。 ・特別支援教育研修の実施 ・生徒による授業評価アンケートおよび教員相互の授業参観を年2回実施し、授業改善を図る。	・1人1台端末やICTを活用した授業・学習指導について研究した教員100%、実践した教員80%以上。 ・特別支援教育に関する意識や知識が高まった教員80%。 ・授業評価アンケートの結果を授業改善に生かすことができた教員80%以上。	研修 相談室
	・働き方改革に向けて業務改善や円滑化に係る具体的措置の検討と実施。	・各分掌学年で業務見直しによる削減又は改善等を検討する。 ・毎定時退勤日（曜日）を設定し、時間を意識した働き方をする。	・業務の削減又は改善について検討した分掌学年100%。 ・完全退勤時刻（20:00）と定時退勤日（曜日）を意識して働いた教員80%以上。 ・時間外在校等時間が月80時間以上の教員が10%以下になる。	委員会 管理職
ケ	・安心・安全な施設・設備および生徒の教育環境整備の充実を図る。	・教室等、生徒の学習環境の定期検査。 ・ゴミの分別を徹底し、減量を図る。	・教室の照度、CO₂、騒音の検査を年に2回実施。 ・年間のゴミの排出量900kg以下。	保健
		・新校舎建設工事の確実な施工及び移転計画の準備。 ・仮設校舎及び既存施設の維持補修。	・新校舎建設工事の工期遵守 ・新校舎移転計画の策定 ・施設等の不具合による事故0件。	事務